

とうきょうと すくわくプログラム活動報告

園名	万願寺保育園
活動日時	令和7年11月15日(土) 令和8年2月7日(土) 令和8年2月26日(土) その他保育時間内
対象年齢	0,1,2,3,4,5歳児

1.活動テーマ

《テーマ》

砂遊び

《テーマ選定理由》

砂の感触を楽しみながら、ダイナミックな遊びと砂の性質を感じながら、子どもたちの探求心を深める

2.活動スケジュール

年齢ごとの子どもの姿を捉えてから、講師から保育士が砂遊びについて実際の活動を通して学びを深める。子どもたちに砂遊びの楽しさを伝えながら、保護者にも砂遊びで子どもと一緒に遊ぶ機会を作る。さらに砂遊びについて学び、子どもの探求心につながっていく。

3.環境の設定

シャベルやバケツ等日常使っているものの見直しをする。砂の感触を楽しむことができるように砂を足し、思い切り遊ぶことができる環境を用意する

4.活動内容及び保育士、子ども、保護者の姿

令和7年11月15日(土)

講師：笠間浩幸特任先生(同志社特任教授)

場所：万願寺保育園砂場

参加：保育士14名

活動内容：砂場で道具の使い方や砂遊びで型抜きをするときの方法について実際に砂を触りながら学んでいった。固くするためには水を使い、その時にはシャベルも活用する。また固める時には方の周りを叩く。その時に行為に対する名前を付ける。2歳くらいになるとうまくできなかった時に失敗したという自己評価をするようになる。子どもの「いいこと考えた」を大切にする。

保育士の姿：先生の話聞きながら、実際に型抜きや階段を作っていた。保育士も集中している姿が見られ、「いいことかंगाえた」という言葉が聞かれた。木の作り方等を教えてもらい、砂場一面にお城やトンネルなど造形していた。

子どもの姿：週明けいつもと違う砂場に興味津々な様子が見られた。その後保育士と一緒に砂遊びをすると、遊具を使いながら遊び、今まで2歳児と1歳児が話をしながら砂遊びを行うことがなかったが筒状の容器に砂を入れて、役割を決めながら一緒に遊ぶ姿が見られた。また砂の木を作った保育士の姿を見て「作れるようになりたい」と話す子どももいた。



令和8年2月7日(土)

講師：笠間浩幸特任先生(同志社特任教授)

場所：万願寺保育園砂場

参加：4.5歳児11名 保護者14名 兄弟児(小学生を含む)5名 保育士9名

活動内容：親子で砂遊びを行う。参加人数が多くなったため、2グループに分けて行った。保護者の方々にも一緒に参加してもらいながら、砂場で遊ぶ体験を通して親子で遊ぶことを楽しんでいた。

子どもの姿：保護者と一緒に遊べる楽しさもあって、興味を持って講師の先生の話聞いていた。積極的に関わる姿が見られ、今まで経験したことのない砂の遊び方に目を輝かせていた。大きな容器に乗り、踏み固めるなど感触を楽しんでいた。寒い日だったが、水を使い硬くなると形ができることに興味を持って砂遊びを楽しんでいた。

次頁に続く

保護者の姿：保護者の中には「砂遊びは好きではない」と話す方もいた。最初は少し躊躇していたが、徐々に子どもが遊んでいる姿に関わりながら砂に触れる保護者の姿があった。終わった後保護者に話を聞くと、「公園に行っても砂場で遊ぶことはなかったので楽しかった」「いい経験ができた」等感想を頂いた。

保育士の姿：1回目の研修で保育士が経験していたので、子どもと積極的に遊ぶことができた。



令和8年2月26日（木）

講師：笠間浩幸特任先生（同志社特任教授）

場所：万願寺保育園にこここホール

参加：保育士 15名

活動内容：砂遊びの歴史、子どもの砂遊びを通しての成長を学ぶ。



5.波及効果①

1. 2歳児は散歩先の公園で砂遊びを行っていた。実施に遊んでみると、砂が固かったり、中には植物の根がはっている公園もあったが、興味を持っている様子が見られた。公園の砂場で遊ぶには管理されていない場所があり、思う存分遊ぶには難しいことを感じた



波及効果②

年長児が卒園前、砂場で万願寺保育園を作りたいという声が上がった。卒園生9名で1日かけて砂場に万願寺保育園を製作。普段口数の少ないお子さまが、積極的に参加している姿が見られた。また作った作品に愛着を持った様子で、登園最終日まで残しておきたいという希望を自分たちで保育園全体の職員に伝えるなど主体的に関わる姿が見られた。最終日には作品を崩して、満足して最終日を終える姿が見られた。



6. 保育士の声

☆3～5歳児担当保育士

砂に水がぐんぐん級数されていく現象にわくわくしました。

☆3～5歳児担当保育士

子どもの発達ともに、砂場の遊ぶ楽しさ、奥深さを知ることができました。

☆1.2歳児担当保育士

実際に職員で作品を作り「楽しい」という気持ちで取り組めたので、お子さまとその「楽しい」を共有したいと思いました。

☆1.2歳児担当保育士

「楽しい」や「感じる」などを言葉で使いがちですが、砂とのかかわりの中で「伝わる」「伝える」ことが大切だと思いました。

7. 今回のすくわく活動をを通して

☆職員一人一人の砂遊びの技術向上に繋がった

☆保育園の砂場の使い方や見直しにつながった（砂の追加購入、玩具追加購入、砂場の縁）

☆子どもと保護者の遊ぶ機会を作ることができた。

☆砂場遊びから子どもの主体的な姿や関わりなどの成長を感じる場面があった。

